

### 30. 《戦いに備えた江戸の最初のインフラ》

関東に入府した家康は、江戸を拠点とすることとし、江戸城を築きながら、戦いに備えたインフラを築造します。水と米と塩です。

このため、水を江戸城に引くため神田上水が築造され、近郊生産地確保のため亀有にため池が造られ（注1）、塩を運ぶために小名木川が開削されます。

当時の塩の生産地は江戸川河口域でした。そこから江戸に運ぶためには、不安定な浅瀬を迂回しなければなりません。そこで、隅田川の流路を固定し（注2）、浅瀬に小名木川を開削して航路を確保しました。

さらに家康は、江戸を人流・物流の中心にするため、日本橋を築造して五街道の起点とするとともに、江戸湊を造成します。

当時の物流は水運です。関東は、長らく南西側（鎌倉や小田原など）と北東側（古河など）に分かれ、内紛が絶えない地域でした。江戸湊は、両地域の物流結節点として関東支配の要であり、“大阪冬の陣”の頃には、くし型埠頭を完成させています。

また、江戸のまちを水害から守るために、神田川を掘り、日本堤を築造します。（注3）

それから、いよいよ本格的な利根川東遷、荒川西遷事業が始まるのです。

参考：主要関係年表

1590 年：神田上水築造

1593 年：亀有溜井設置

1594 年：千住大橋架橋

1597 年：荒川上流（深谷市）に六堰が設置し用水路開削

1600 年頃：牛島築堤（宮戸川が隅田川本川に）と小名木川開削

1603 年：日本橋架橋、翌年五街道の基点となる

1614 年頃：江戸湊くし型埠頭完成

1614 年：瓦曾根溜井築造、

1615 年（元和元）：綾瀬川締め切り

1620 年頃：日本堤築造、神田川開削

注1：亀有に溜池を作り、綾瀬川の水を溜め込み、葛西地区開発の水源としました。

注2：隅田川は、河口付近で3本の派川（宮戸川など）に分かれていました。その分流地点に、堤防を築き（牛島堤。現在の墨堤の一部）、宮戸川を隅田川本川にしました。

注3：「江戸を守るために、日本堤と墨堤を逆ハの字型に造って上流側を遊水地にした」という説がありますが、築造年からして誤りです。当時の江戸（宮戸川西岸）からみれば、墨堤は逆に水害リスクを増大させますから。

江戸時代初期の荒川・綾瀬川下流域の様子と亀有溜井の位置（「水のFORUM」より、赤丸を細見が追加）



